

11 : 45 「13世紀村」着。敷地一体に宮殿や遊牧民・教育のゲルなどが点在し、13世紀のモンゴルの様子が再現されているという。教育のゲルで、昔のモンゴル文字で各自の名前を筆書きしてもらい、貴重なお土産となった。また、当時の武具を着てみたKさんの、違和感のなさに盛り上がった。



13世紀のモンゴルの人々の生活を体験

その中を人が横切って行く。この渋滞の中をバスがウターンし始めた。後ろの誘導係などおらず、改めてモンゴルの交通ルールに感心した。

19 : 20 レストランで夕食。店内は賑やかな音楽が流れ、キャンプでの夕食とは様変わり。ただし料理は基本的にモンゴル料理。若干食が細くなっていた人も。隣の席には日本の団体客がいた。

26日(土) 新モンゴル高校で植樹

天候は良好。明日、自然史博物館が休館のため、植樹の後で見学することとなった。

7 : 00 朝食のモンゴル産ストロベリーヨーグルトのパックを開けたら、カビがびっしり。1個だけでなく幾つも。賞味期限は7月なのに。

9 : 40 新モンゴル高校着。玄関前に風船のトンネルとステージが設置されていた。部屋の壁には世界地図と日本地図がある



日本地図に留学生のいる所が示されていた

り、日本のどの大学に何人留学しているかが表示されていた。日本に199人。中国18人、アメリカ16人の順。日本では信大22人、岩手大と千葉大15人。

10 : 10 セレモニー開始。校長先生の挨拶。校長先生は山形大と東北大学院で学ばれた。新モンゴル高校は2000年に初の3年制日本式高校として開校。「体制移行後の新たなモンゴルの未来を担う人材育



小諸音頭を披露

成」を目標に、「新モンゴル高校」とした。男子生徒が馬頭琴演奏を、女子生徒が「キロロ」の「長い間」を合唱。団からは小諸の皆さんが小室節を披露。そして全員で「信濃の国」と「ふるさと」を合唱。最後に女子生徒が踊りを披露。校長先生から団長に記念品、生徒一人ひとりから団員にも記念品が贈られた。



12 : 50 学生食堂で昼食。訪問団から生徒にプレゼント。生徒が食べている昼食をいただく。モンゴルへ来て、一番口に合う。ジグジッド前駐日大使がモンゴル農業大学の女性教授を連れて来た。

13 : 20 学習会のため教室へ。団長がジグジッドさんを紹介し、ジグジッドさんの挨拶。教授の話の後、質疑が行われ、また、新モンゴル高校の科学の先生から説明があった。

14 : 40 自然史博物館へ。バスが動き出すと、生徒が来てバスを止め、一人の団員と話をして

13 : 20 遅めの昼食。サラダとポールツエグ(揚げた菓子)が出され、ポーズの揚げ餃子版とも言える「ホーシヨール」が出された。細かく切れた麺が入ったスープは薄味。乾燥牛肉のエキスが出ていて独特の風味。

16 : 10 食事終了後、残りのゲルを見学し、ウランバートルへ向かうが、物凄い渋滞。車の割り込みは当たり前で、横の車とはcm刻みで走っているし、